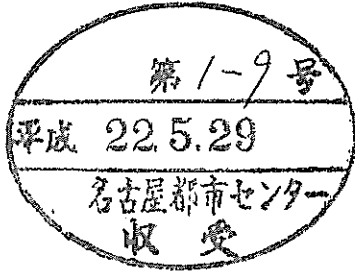


第1号様式（一部公開）

平成22年5月29日

（あて先）

財団法人名古屋都市センター理事長殿



申請者

所在地	
公開 名称	清須越 400 年事業ネットワーク
代表者	

まちづくり活動助成申請書

当団体のまちづくり活動について、名古屋都市センターまちづくり活動助成金交付要綱による助成を受けたいので、下記のとおり申請します。

記

- 1 助成を受けようとする部門（該当部門を○で囲んで下さい）
 ・ 地域 “魅力” アップ部門 ・ “はじめの一步” 部門

2 団体の活動について **公開**

審査基準⑤ 活動実績と主体性	・提案内容につながる地域での活動実績を有しているか （団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等をご記入ください。） ・具体的にどんな熱意を注いでいるか
<団体の概要> 別紙1会則	
<ul style="list-style-type: none"> 平成20年度名古屋都市センターの提案型「グループ交流会」に「清須越400年プロジェクト」で応募して採用され、平成21年5月10日「清須越400年事業ネットワーク」を設立した（50名入会）。発起団体：NPO法人揚輝荘の会、東区まちそだての会、美濃路まちづくり推進協議会、那古野一丁目町づくり研究会の4団体。 目的・特徴①歴史的・文化的資源を活用した、まちづくり団体及び活動家のネットワークを構築し、より広い分野・地域での情報・人材等の交流を図る。②具体的な事業の実施を目標にした協働により、総合的で効率的な活動を行う。③成果物を残し、後世代につなぐ。④常に市民の目線を大切にする。⑤第1号事業は「清須越400年」 	
<21年度の活動実績> 添付資料1	
<ol style="list-style-type: none"> 調査研究学習：清須越の調査・研究・学習会（特に寺社の訪問調査）を行った。 まち歩き：市民参加型で清須越関連の地域を歩き、その痕跡、ルート等を確認した。 マップ制作：清須越鳥瞰図、寺社移転マップ、清須城下図などのマップを制作した。 展示パネル制作：上記マップを各種展示パネルとして制作。 シンポジウム：清須越をテーマに開催し、市民の意見・発言時間を長く設けた。 	
<成果・熱意>	
<p>歴史・文化・まちづくり分野での多数の団体・個人会員によるネットワーク組織で活動したことにより、単独の団体では不可能であったと思われる成果が達成されつつある。清須越400年の本番を迎え、調査・研究を進めるとともに、名古屋のルーツを市民と共に考え、多くの成果物を残し、次世代につなぐ活動に意義を感じ、熱意を注いだ。</p>	

まちづくり活動助成「地域“魅力”アップ部門」
まちづくり活動提案書

1 助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

提案名	清須越400年記念事業 ～名古屋の400年をふりかえり、次の時代への展望を開く～		
団体名	清須越400年事業ネットワーク		
活動を行う地域	名古屋市内各所		
提案の内容	<p>1 調査・研究 名古屋開府・清須越400年の調査・研究を前年に引き続き進める。清須越寺社の調査は、すでに86ヶ寺社を終了し、103ヶ寺社までを目標とする。調査テーマも清須越の人物・史跡などへ広げる。小冊子作成のための情報の蓄積を図る。</p> <p>2 マップ印刷 ・清須越関連地図の7種類のベースデータ（古地図、手書き地図、国土地理院地図）を作り、これに各種情報を加えて、多種類の地図・パネル原稿を制作してきたが、今回の活動は、清須越鳥瞰図、移転寺社、清須城下図などの地図を印刷する。各種イベントなどで配布し、情報発信する。 ・持ち運びの簡便さに配慮し、布印刷も検討する。 (例) 清須越鳥瞰図、寺社移転、清須城下町⇒添付資料3～6</p> <p>3 シンポジウム ・清須越に関する各種テーマでシンポジウムを開催し、清須越に対する関心を高める。 ・広く市民の参加を呼びかけ、特に団体に属さない市民（個人研究者、趣味人）の発言時間を十分に設け、市民の情報、ニーズを把握し、調査・研究活動に反映させる。 4回開催を企画する。8,9,11,12月 講師候補：安田文吉（名古屋の伝統芸能）、早川秋子（近世家並帳）、山本祐子（猿候庵）等 募集人員：各30人、参加費：資料代程度</p> <p>4 小冊子の発刊 清須越を総合的に捕らえた書籍は見つからない。「清須越とは何か（総論）」の主文に加え、調査・研究活動で蓄積した資料（清須越寺社一覧表・調査票・報告書、清須越人物・史跡など）を各論として集積し、更にエピソード、こぼれ話などを加え、清須越の全体像を把握できる冊子を目指す。各種地図、レポートなどの大容量データはC/Dにして添付する。</p>		
活動期間	平成22年4月～平成23年3月	助成金交付申請額	50万円

2 提案内容について

「1 提案の内容」について、以下の4つの視点で具体的に活動内容をご記入ください。

審査基準①
必要性

- ・地域に根ざしたまちづくり活動内容か
- ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か
- ・地域との連携や協力が得られる活動か
- ・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感が得られる活動か

1 地域に根ざした活動

清須越は、名古屋のまちづくりのルーツ・基盤であり、400年（2010年）に際し、その歴史的、現代的意義を市民が考え、認識することは、次代への展望へとつながり、地域に根ざしたまちづくり活動として、持続可能な市民社会の構築を支えていくことになる。

2 住みよい環境

名古屋市内各所及びその周辺をフィールドとする活動に多数の市民が参加して自分たちのまちの成り立ちを知り、より愛着を感じるようになることは、多くの地域の人たちに理解や共感が得られる活動であり、地域の住みよい環境づくりに貢献することになる。

3 地域との連携、共感

清須越については、総合的・体系的に捕らえられた書物、資料は不足しており、調査・研究活動によって、それを積み重ね、小冊子としてまとめる意義は大きい。シンポジウムなどで市民への情報発信、ふれあいを行うことは、市民の考えやニーズを把握するものであり、地域との連携や共感が得られやすいと考える。

*上記1～3については、前年の助成金活動でも成果・効果を発揮している。

審査基準②
独創性

- ・創意工夫にあふれた活動か
- ・地域性を活かした個性豊かな活動か
- ・新しい視点やアイデアがあるか

1 創意・工夫

本ネットワークは、歴史・文化・まちづくり系の団体をつなぎ、個々の団体では達成できない情報・人材などの総合力を発揮しようとするものであり、新しい市民パワーの創出を目論むものであり、21世紀型のまちづくり組織といえる。また、組織に属さない市民の貴重な情報・活動も吸収し、戦力とする受皿として存在価値を発揮するであろう。

2 地域性・個性豊か

広域にまたがる清須越を総合的に捕らえるには、そのエリアをフィールドとする多数の団体の協働による活動が相応しい。その点で、本ネットワークは類似例の少ない、きわめてユニークで存在価値のある組織であり、地域性を発揮し、地域の連携を促進させる組織でもある。

3 新しい視点・アイデア

市民参加型イベントでは市民の声を聞く機会・時間を優先的に取り、一緒に考え、議論し、その成果を活動に反映することを基本にする。

（通常、シンポジウムなどでは、コーディネーター、パネリストの発言が中心で、一般参加者の意見を聞く時間はほとんど無くなる）

また、活動の結果については、成果物を残すことを重視し、ビジュアルなものにより理解が深まるとともに、記録され残されることによって、将来への継続的な活動につながっていく効果が期待できる。

審査基準③ 実現性		・提案内容が具体的にになっているか ・予算は妥当か
時期	活動内容	
平成21年4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 平成22年1月 2月 3月	①調査・研究、②シンポジウム、③地図印刷、④小冊子制作 	
提案の具体性 ①地図のサンプルは⇒添付資料3～6 ②小冊子の原稿の多くはでき上がっている ②シンポジウム：講師・候補者は十分に情報ネットワークを持っている。		
予算の妥当性 ①講師謝金：生涯学習センターへ ②地図・パネル作成：会員のボランティア及び他 NPO の応援を受けて低コスト化。 ③小冊子：パソコン印刷、簡易製本。写真・大容量データは C/D に落とし、添付する。		
審査基準④ 発展性		・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか
1 2009年度の活動 前年度は清須越 400 年（2010 年）の助走期間と考え、今年度の本格活動に繋がるような基盤づくりのための準備活動を行ってきた。		
2 2010年度（清須越 400 年）の活動計画 ①前年度準備活動のフォロー 調査・研究、シンポ、マップ・パネル制作等の活動を更に進め完成させる。 ②今年度の目玉イベントとして、狂言講演会を企画・実施する（11/6）。 ③小冊子発刊 前年度からの、調査研究の情報を蓄積し、地図・パネルのデータも加え、小冊子（書籍）として発刊。 ④道しるべの製作 調査をした清須越寺社及び清須越史跡（伊藤呉服店など）に石の道標を設置する。後世にまちの記憶を残し、語り継ぐ。 （不確定要素が多いので、現段階では予算計上はしていない）		
3 今後の事業展開 平成 23 年度までは「清須越 400 年事業」を続けるが、次の事業としては、例えば、「歴史的建造物、史跡を活かしたまちづくり」「芸術・芸能によるまちづくり」等が考えられるが、現組織の経験、ノウハウが活かされ、引継がれ、発展していくであろう。		